

# 流通BMSセミナー2024 座談会



企業間取引のデジタル化についてEDIサービスの今後の方向性

# テーマ

**1.** あるべき姿  
業界を超えた活動(理想)

**2.** 現状の課題

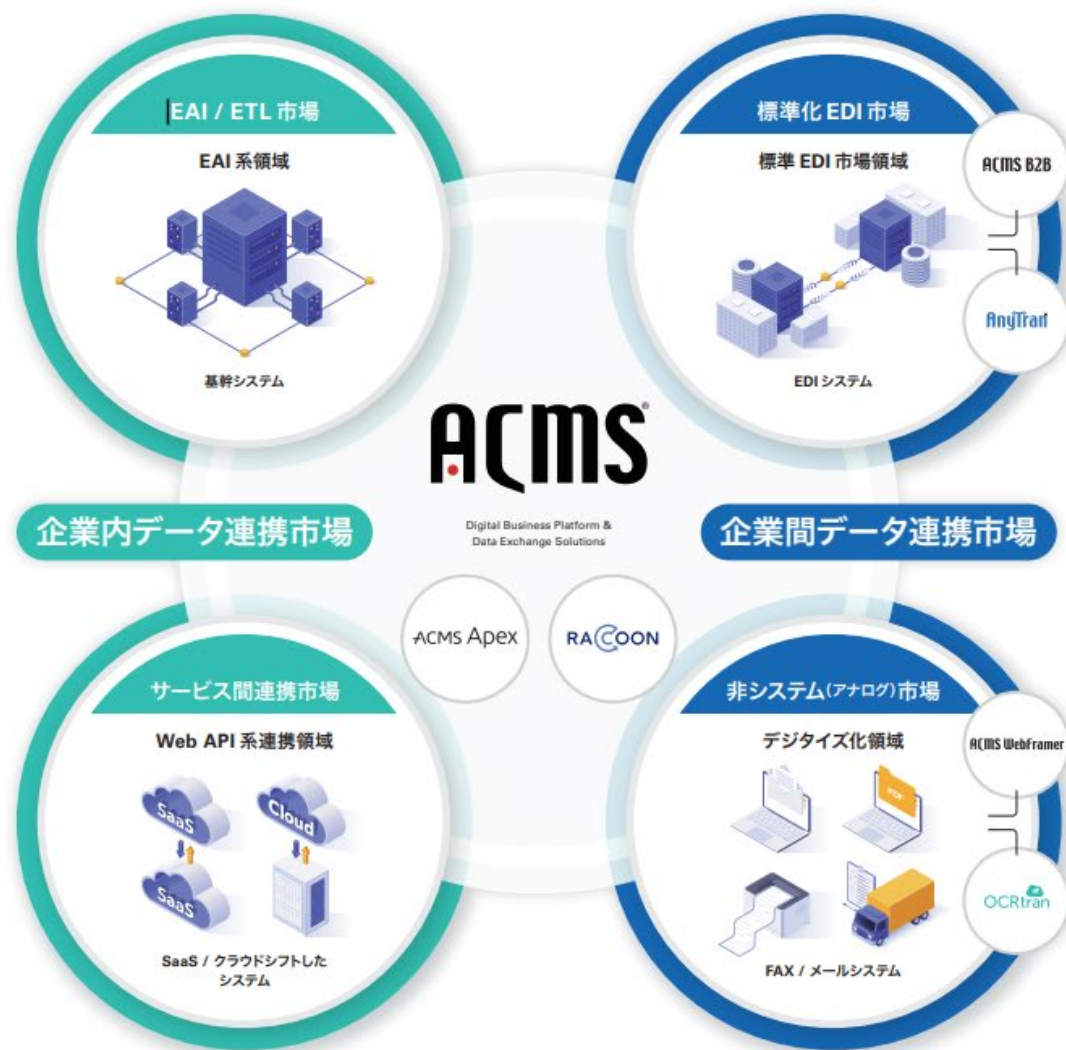
**3.** 課題に対応する考え・方法  
業界標準化・全体最適化論

# 1.

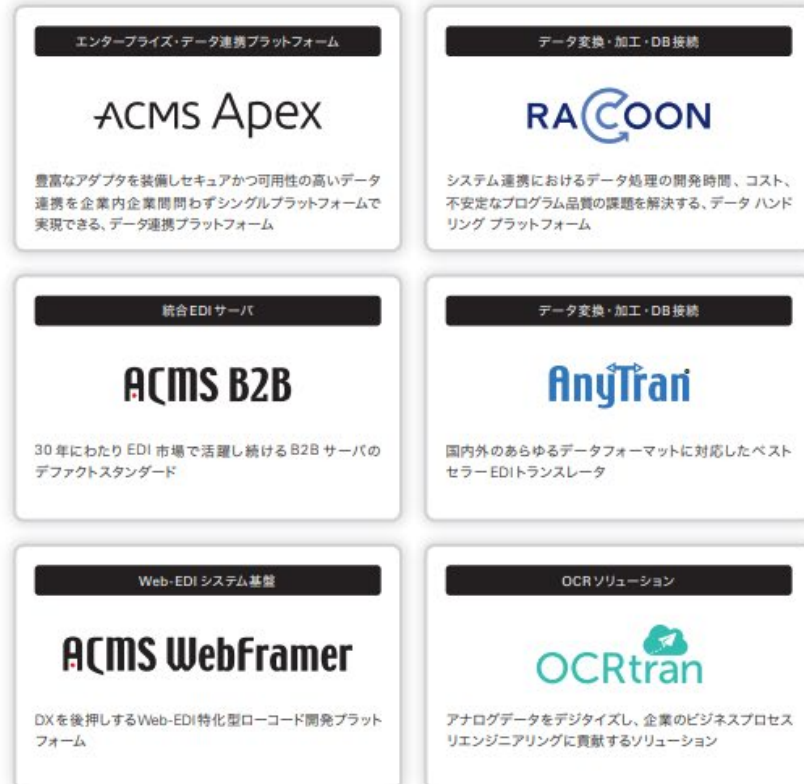


あるべき姿  
業界を超えた活動(理想)

# ACMSラインアップとカバレッジマーケット



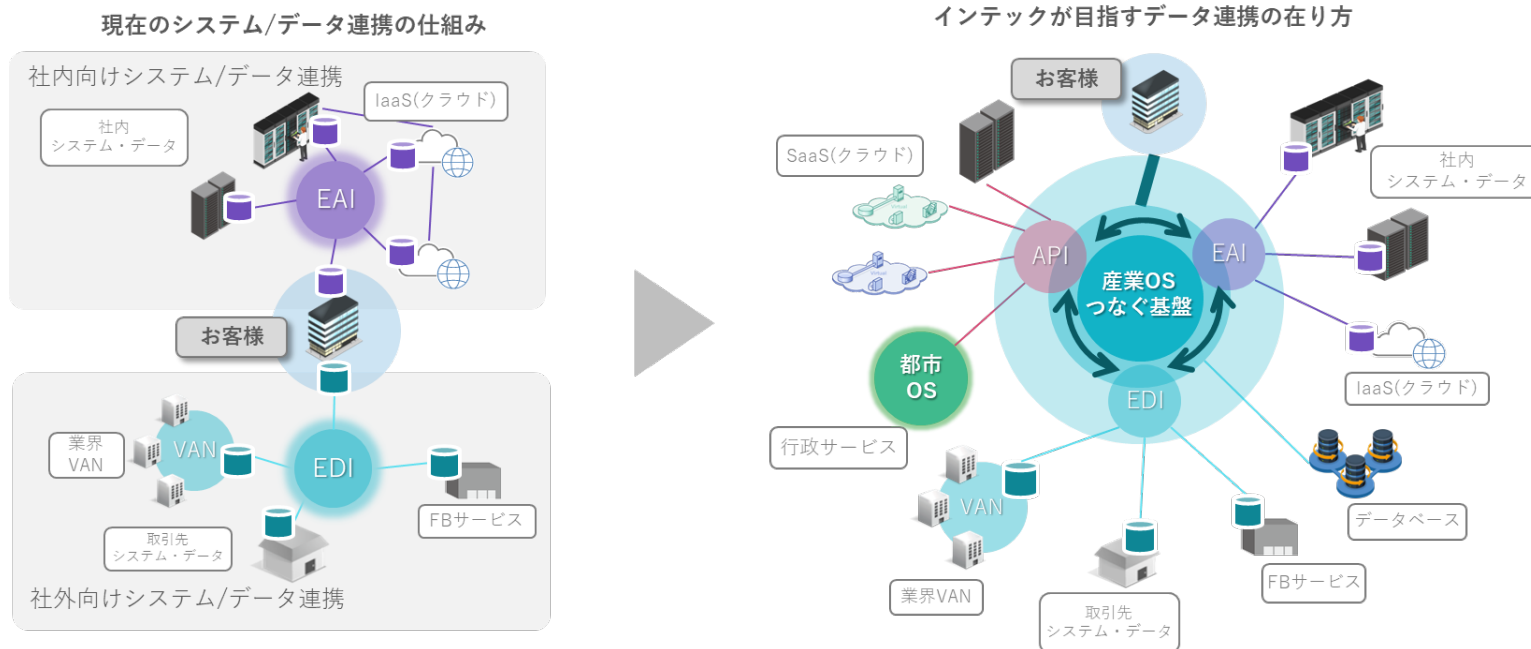
## 企業間企業内データ連携を シングルプラットフォームで実現



# インテックが考える次世代の情報流通の在り方

■ 地方自治体や官公庁などの公共分野の「デジタル田園都市国家構想」においてはすべてAPIで接続する「都市OS」という基盤での整備が行われている。

■ 今後、企業間取引データの全体量に対しAPIが占める割合は増えると予想。



「EDI」に加えて、企業内のシステム連携を行う「EAI」、社外のデータ・サービス間をつなぐ「API」など、すべてのデータ連携手段を提供することで、誰も取り残さないデータ連携の実現が必要と考える。

流通BMS含む「EDI」は今も今後もサプライチェーンにおける重要なテクノロジーであり、無くなる事はない。

**「EDI」にはメッセージの充実や災害や障害に強い基盤が求められる。**

# 2.

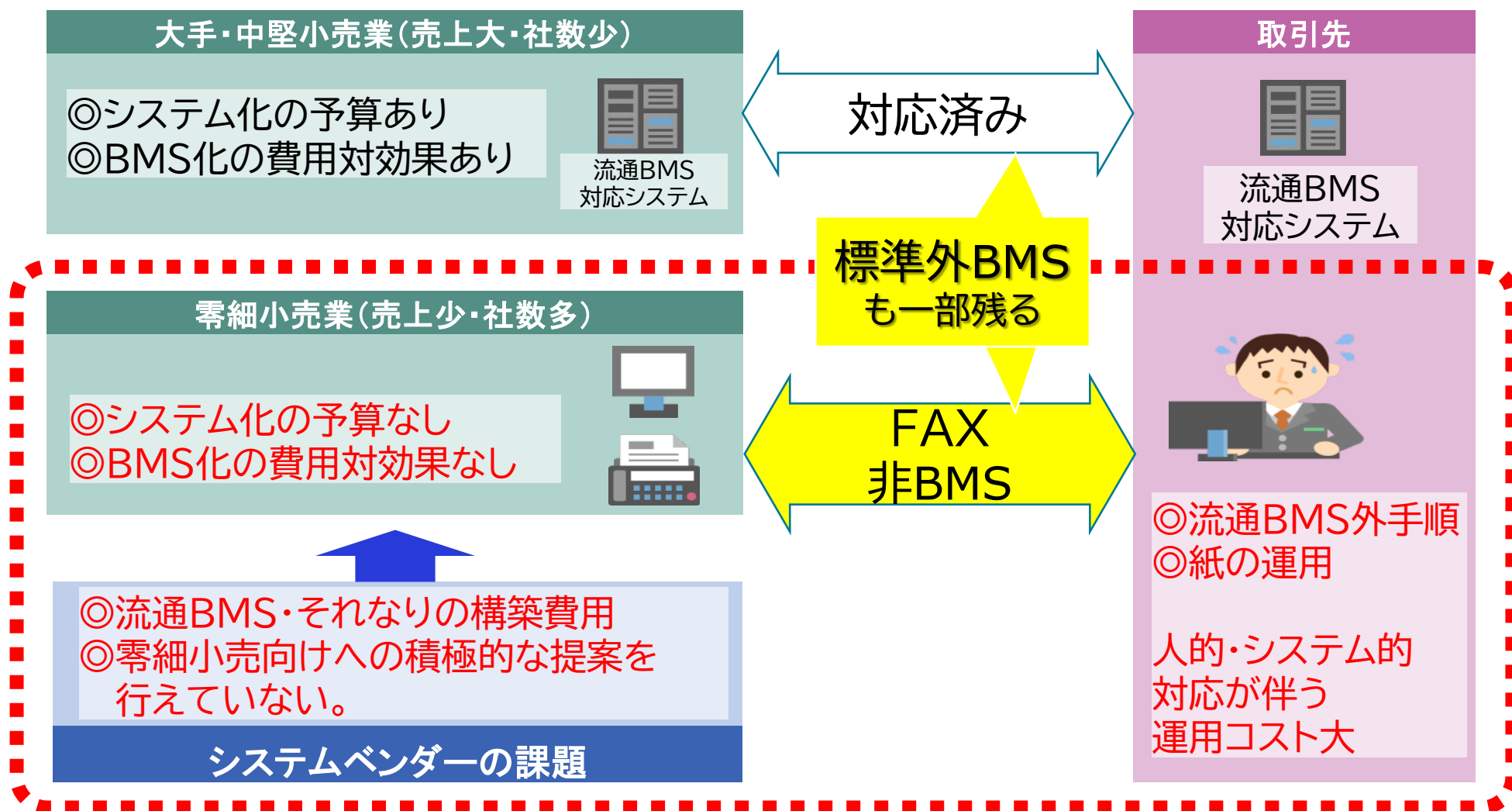
## 現状の課題



# 「企業間取引において流通BMSの普及を阻む要因」

【要因1】 社数でみると多い零細小売業が、流通BMS対応に遅れが発生

【要因2】 「標準外の流通BMS」による流通業界全体の最適化の阻害



## EDIの現状の課題（メーカー側）

### •なんちゃって流通BMS

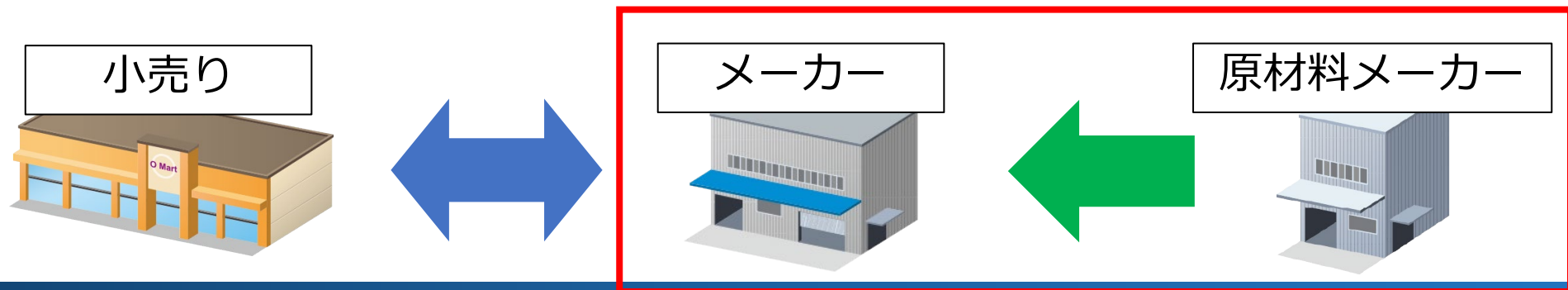
通信プロトコルだけを変更し、データ形式が従来通り固定長のまま。

### •FAXでの取引

帳票形式でのやり取りが多い。  
ITベンダーでも受発注で利用されている。

### •発注側もレガシー

技術者不足、構築予算の関係でレガシーが残る





課題に対応する考え・方法  
業界標準化・全体最適化論

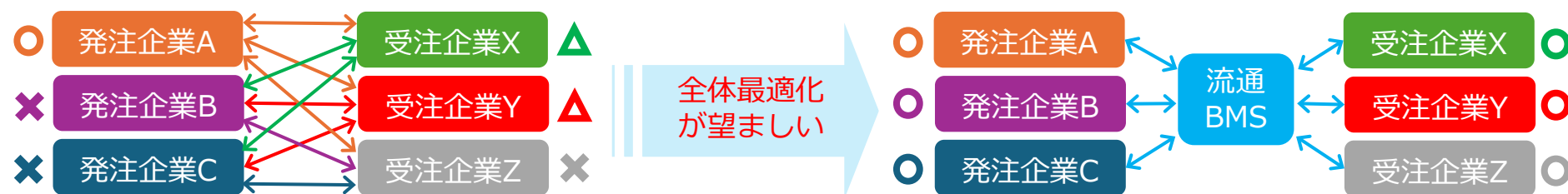
3.

# 「企業間取引のデジタル化についてEDIサービスの今後の方向性」

## 1) “添付型BMS企業の標準化” と “非EDI企業の流通BMS化”

- ・インボイス制度やPSTNマイグレーションへの対応を終え、当面EDIシステムに関する大きな変更はありませんが、添付型BMSのような非標準EDI仕様や非EDI企業によるアナログ処理での作業などが多く残っている状況です。将来、新たな法改正が発生し、それに伴うシステム改修が必要となってしまった場合、ユーザー企業はもちろんのこと、弊社のようなEDIサービス事業者にとっても大きな負担になってしまいます。
- ・非EDI企業に対しては、個別のEDIサービスの導入が増えている状況だと思いますが、多くの個別EDIが乱立すると、業界全体の効率化にはならないと考えます。また、発注だけデータ連携されているような添付型BMS企業では、すでに大きな課題である物流など受注以降の業務に対しても、EDI（情報連携）による効率化が必要だと考えます。

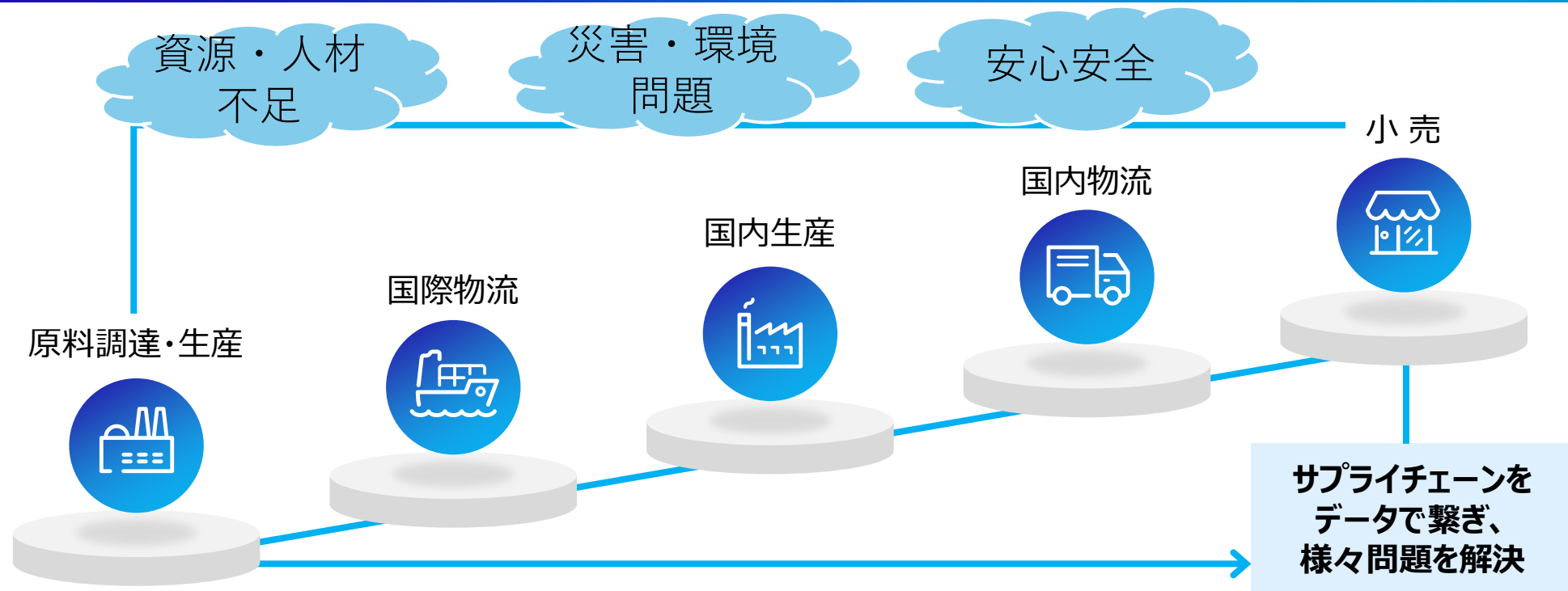
⇒AIの活用や簡易的にEDIを利用できる機能追加などを行い、業務の実態にあわせながら、業界標準EDIである流通BMSをどのように小規模企業まで拡大できるかが重要になると考えています。



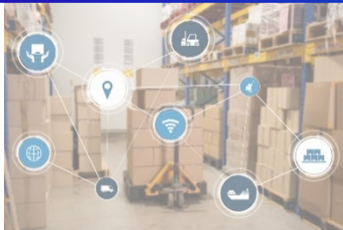
## 2) インボイス対応の標準仕様化（値引、相殺関連）

- ・現在、GS 1様にて検討されています値引情報の標準化はもちろんのこと、インボイス情報となる相殺の内訳情報に関する標準化も重要であると考えています。弊社では、数社の小売業様でプライベートメッセージとして対応いただきましたが、本来は業界で標準化しなければイケナイと考えています。

⇒弊社での取組み事例に関する情報をGS1様へ共有いたしますので、ご活用いただきたいと思います。



## サプライチェーンをデータで繋ぎ、デジタル化により課題解決



1

製・配・販 情報連携トレーサビリティによる消費者へ安心安全

2

取引以外の企業間情報連携による CO2 scope3など環境問題取り組み

EDIの世界ではサービス間が手を繋ぎサプライチェーン全体に貢献

そのためにも標準化が重要



- 企業間EDIの業界標準である「流通BMS」の普及拡大が重要
- 新たな要件にも対応するべく、常に進化させ拡充を目指す
- 「流通BMS」を皆様と一緒に作り上げていく